

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 泉台 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

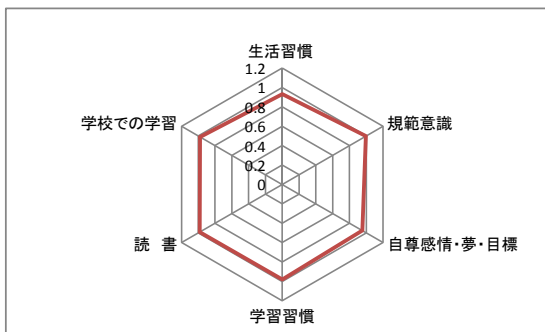
国語A	全体的な傾向や特徴など	・「読む能力」は定着しているが、ローマ字や漢字の読み書きに課題が見られる。既習の漢字やローマ字の読み書きを継続して指導する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・登場人物の人物像について、複数の叙述をもとにして捉える問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・基本的な漢字の読み書き、ローマ字の問題が全体的に全国平均を下回っていた。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・文の要旨をまとめたり、指定された文字数で自分の考えを書いたりする「記述式」の問題の正答率が全国平均を下回っている。今後も様々な活動の中に「書く」活動を多く取り入れ、個に応じた指導をする必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・グラフをもとに分かったことを的確に搔く問題、本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・話の展開に沿った質問を書く問題、自分の考えを明確にして、紹介したい内容をまとめて書く問題の正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・数と計算領域の技能は高いが、図形領域や数量関係の領域に課題がある。継続して基本的な四則計算の技能を高めていきたい。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・整数、小数、分数の四則計算の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・単位量あたり問題、割合の問題、三角形の底辺に対応する高さを考える問題が全国平均を下回っていた。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・考え方を選択したり、適用したりする問題の正答率が高いが、自分の考えを根拠を示して説明し、説明を文章で書く問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・示された説明を別の問題に適用する問題や、考え方を説明する文を選択する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・示された数値の意味や式の意味の説明を文章で書く問題に課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識、学習習慣、読書、学校での学習に関しては全国平均並みであった。 ・朝食を毎日食べない児童が全国平均より高く、基本的な生活習慣がなかなか定着しない傾向にある。家庭の協力が一層必要であることが考えられる。 ・「自分にはよいところがある」と答えた児童が全国平均より低い。自分のよいところ、自信のも照るところを再認識させ、自尊感情をさらに育てていきたい。そのためにも家庭でのお子さんへの声かけに留意していただき、セルフイメージを高めるようにしてほしい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 基礎的・基本的な学力向上のため朝の学習の時間に取り組む内容を曜日ごとに決め、全校で一斉に実施。
- 担任外教諭による少人数指導や個別指導を計画的・継続的に実施。
- 単元や学習のまとめに学習プリントを活用し、基礎基本の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭学習がんばりカード」を使用し、毎日、学習の確認をして、家庭学習の習慣化をはかるようにする。家庭学習においては、自主学習ノートの活用を位置付ける。
- 学級懇談会や個人懇談会、学校便り等を通して、学力テストの課題などを保護者へ周知する。